

**英語科学習指導案**

授業者 大 鐘 雅 勝

展開学級 1 年 1 組

展開場所 1 年 1 組教室

## 1 題材名 さまざまな疑問文

## 2 題材の考察

## (1) 言語材料および言語活動の観点から

本題材では、Who、Whose、When、How などの疑問詞を用いた疑問文の他に、orを用いた選択疑問文を学習する。文法事項の指導に重点を置いた授業である。

文法事項の指導に当たっては、次のような点に留意するようにしている。本題材の指導に当たってもこれらの点を心がけていきたい。

導入に当たっては、きちんと場面を設定して導入する。

例えば「The pencil is in the box.」という文を導入するのであれば、箱に入った鉛筆を用意するなど、それぞれの英文の指し示すものや状態などがきちんとわかるように場面を設定することを心がけている。言い換えれば、生徒や教師が口にする英文が、一つ一つきちんと意味を持つようにする、ということである。

そのために、4月の第1時から、生徒も教師もそれぞれ自分の立場から発言するよう、習慣づけている。例えば教師が「This is my book.」と言えば生徒は「That is your book.」と言うようにする。

また、本題材のような疑問文を扱う際には、本当に疑問の気持ちが生じるように、場面を設定する。例えば「What is this?」という文を導入するには、本当に何であるのかわからない品物を用意して、それを提示する。

それぞれの文法事項は言語活動を行う中で導入する。

文部科学省の学習指導要領は、言語材料の取り扱いとして次のように述べている。

「文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連づけて指導すること。」(『中学校学習指導要領解説 外国語編』p.45)

したがって授業では、「今日はWhoを用いた疑問文の使い方を学習します。」などと言って文法説明から入るのではなく、実際に英語のやりとりをする中で新しい文法事項を導入するようにする。

言語活動と言っても様々なものがあるが、特に1学年の授業で主として用いるのは「場面を描写する」という活動である。学習指導要領では、〔言語の使用場面の例〕のうち、「c 情報を伝える」の中に例示されている。

教師が示す実物や絵、行動などを見て、生徒はそれを既習の言語材料を用いて英語で描写する。既習の言語材料で表現するのが難しくなったところで、目標となる言語材料を導入する。生徒は実際に英語を用いて言語活動をする中で、どのような場面で用いる表現なのかを知ることになる。

「助走」を十分に行った上で導入する。

新しい文法事項を導入するに当たっては、関連した既習事項を用いて十分に聞く・話す活動を行わせた上で導入する。

例えば Who を用いた疑問文を導入する際、いきなり「Who is this?」などとたずねても生徒は戸惑うだけであろう。誰でも知っている人物を取り上げて「That is .」などのような文を言わせた上で、生徒が誰も知らないような人物を示す。そうすれば「いったい誰だろう?」という疑問が起こる。その上で「Who is this man?」などの文を聞かせれば、日本語を介在させなくても英文の意味するところが生徒たちに伝わっていくはずである。

関連事項をまとめて指導する。

文部科学省の学習指導要領は、言語材料の取り扱いについて次のようにも述べている。

「英語の特質を理解させるために、関連のある文法事項はまとまりを持って整理するな

ど、効果的な指導ができるよう工夫すること。」(『中学校学習指導要領解説 外国語編』p.46)

また、日本語による介在を避け、場面と英語を直接結びつけて導入するには、次のような順序で教える方が効果的である。

ア はっきりしたsituationを示すことのできる文からさきに教える。

イ 次に出てくる文への下ごしらえになるようなものからさきに教える。

(『英語指導法ハンドブック 導入編』大修館書店 p.17)

生徒から見れば、文法事項の指導順序が教科書のレッスンとぴったり一致していれば大変勉強しやすい。しかし教科書における文法事項の配列は必ずしも上の条件に合っているとは限らない。そこで実際の指導に当たっては、教科書における配列も意識しつつ、上記の条件もできるだけ満たすように考えて配列することにする。

本題材では、1年生で学習する疑問文の主なものを連続して指導することとした。なお、(3)でも述べるが、疑問詞WhatとWhereを用いた疑問文、およびyes-no疑問文の基本的なものについては夏休み前に指導が済んでいる。

## (2) 研究主題との関連

本校では、今年度より千葉市教育委員会からの指定を受け、「知識・技能を活用できる生徒を育てる指導 - 「言語に関する能力」の育成を通して - 」という主題のもとに研究に取り組んでいる。これを受け、英語科では「英語で表現する力を育てる指導 - 英語で討論できる生徒を目指して - 」という主題を掲げ、研究を進めている。

本題材は、知識・技能の活用的前提となる段階、すなわち「基礎的・基本的な知識・技能の習得」を目指したものである。

言語活動としては、(1)で述べたように「描写する」活動が中心となる。これは学習指導要領の中で「情報を伝える」活動の一つとして分類されている。将来、英語で討論ができるためには、自分の意見や、客観的な事実などを正しく伝えられることが求められる。そのための土台作りの一つとなる題材である。

目標となる言語材料の知識を確実に習得させるために、授業の中で教師が生徒のノートをチェックして理解度を見る場面を必ず設定するようにしたい。

## (3) 生徒の学習歴

本校では1学年の英語時数は、現行の学習指導要領の通りで週あたり3時間である。

4月から6月上旬までは、入門期の学習として次のような文法事項を学習した。

be動詞(現在)の用法

基本的な人称代名詞、指示代名詞

動詞haveの用法

be動詞(現在)の疑問文

do, doesを用いた疑問文

その後、教科書本文の学習に入り、これまでにLesson 4までが学習済みである。

現在は、文法事項の指導の第2段階として、動詞の進行形と過去形を用いた表現の基本を学習したところである。

英語の発音とスペリングについては、4月のはじめよりフォニックスの学習を「常番組」の形で進めてきている。これまでに子音の発音とスペリングについては一通り学習した。母音についても「マジックe」などの学習をしてきた。さらに母音の様々なコンビネーションなどについての学習を進めているところである。

## 3 題材の目標

- (1) さまざまな疑問文を聞いて、聞かれている内容を理解することができる。(理解の能力)
- (2) 自分のたずねようとすることを適切な英語でたずねることができる。また、相手の質問を聞いて、適切に答えることができる。(表現の能力)
- (3) さまざまな疑問文の用法を理解し、正しく運用することができる。(言語についての知識)
- (4) 授業の中で行われる言語活動に進んで取り組む。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

- 4 題材の展開計画 (6 時間扱い)
- 第1時 Who ～? の疑問文
- 第2時 「A or B」の疑問文
- 第3時 How tall ～? などの疑問文
- 第4時 How many ～? の疑問文
- 第5時 Whose ～? の疑問文 (本時)
- 第6時 When ～? の疑問文

5 本時の指導

(1) 目標

さまざまな疑問文の用法を理解し、正しく運用することができる。

(言語についての知識)

さまざまな疑問文を聞いて、聞かれている内容を理解することができる。(理解の能力)

Whose を用いて持ち主などについてたずねることができる。また、相手の質問を聞いて、適切に答えることができる。(表現の能力)

授業の中で行われる言語活動に進んで取り組む。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(2) 展開

過程	学習内容と活動	指導上の留意点	資料教具	評価
導入 (12)	Greeting	・テンポ良く行う。		
	発音とスペリング 教師の示すカードの単語を発音する。 次に、教師の発音する単語を聞いてその単語をノートに書き取る。 板書された正解を見て各自で答え合わせをする。	・テンポ良く行う。  ・カードの単語から5題、応用問題を2題出題する。応用問題についてはヒントとして文字数を教える。	カード	
	描写練習 既習の表現を用いて、絵で示された場面を描写する。 まず全体で一緒にそれぞれの英文を確認する。次に、各自で一通り英文を言う。最後に、指名された生徒が発表する。	・絵は2枚用意し、それぞれの絵について描写させる。	絵	
展開 (5)	mine, yours の導入 指名された生徒(P1)が起立し、教師の指示で筆箱から定規を取り出す。 その様子を で出てきた表現を用いて描写する。  教師とP1のやりとりを見て、mine, yoursを用いた英文を聞き取る。さらに教師の後について発話する。	・クラス全体から見やすい位置にいる生徒を指名する。		

	<p>T: This ruler is mine. This ruler is yours. P1: This ruler is yours. This ruler is mine. P: That ruler is yours. That ruler is P1's. など</p> <p>教師の示す品物について、その持ち主を英語で言う。 P: That book is P2's. など</p>	<p>・それぞれの生徒が各自の立場で発話するように促す。</p>		
展開 (13)	<p>Whose ~ ? の導入 の続きで、教師の示す品物の持ち主を英語で言う。</p> <p>Whose ~ ? の疑問文を教師の後について言う。 P: Whose book is that?</p>	<p>・ の続きで生徒の持ち物を示す。その流れを崩さないまま持ち主がわからない物を示す。</p>		
	<p>モンタージュ・クイズ 教師の示す絵を見て、各パーツの持ち主をたずねる英文を言う。 P: Whose hair is that? など それぞれのパーツについて、持ち主を答える。 P: It is Maruko's. など</p>	<p>・ 答えを当てやすい絵から見せていく。</p>	絵	指名発表
	<p>持ち主当て 教師の示す品物の持ち主を当てる。</p>	<p>・ 学年の教師の持ち物の画像を示す。</p>	T V モニター	指名発表
まとめ (15)	<p>まとめ 黒板の語句を正しい順序に並べ直してノートに書く。 教師の説明を聞く。</p>	<p>・ 早く書き終えた生徒に黒板で正解を示させる。</p>	カード	机間指導
	<p>問題練習 プリントの問題の答えをノートに書く。指定された問題まで進んだら教師のチェックを受ける。 早く終わった生徒は、黒板に答えを書く。</p>	<p>・ 答えがわからなかった生徒は黒板に書かれた答えを写しても良いこととする。</p>	プリント	ノートチェック
展開 (5)	<p>問題作り Whose の疑問文を用いて、簡単な質問文を作る。 (例) Whose work is "Doraemon"?</p>	<p>・ 事前にわかりやすい例を示す。</p>	プリント	机間指導

「評価」の欄の丸数字は、該当する本時の「目標」を表す。  
については授業全体を通して観察により評価する。